

大田高校 人権だより

令和5年12月22日 大田高等学校 図書・人権・同和教育部

<2学期の人権教育 HR 活動報告>

3年生は「結婚差別」について、大田市市民意識調査の結果と宮崎県人権・同和教育研究協議会の「話してくれてありがとう」という資料を基に、「もし自分が差別事象に直面した時どう対処するか」と「差別のない社会を目指すために私たちに必要なことは何か」を考えました。以下は生徒の感想の一部です。

実際にあった結婚差別に触れると、こんなにも理不尽であることが分かり、驚きました。こういった差別は絶対にはいけないと思うし、このような問題があるということを知っておかなければいけないと思いました。また、このような問題を自分事と捉え、自分だったらどうするかということを今回の授業で考えて、グループの人たちと意見を共有することができてよかったです。

差別をする人たちに共通なのは、「きちんとした人権・同和教育を受けていない」ということが分かり、さらにきちんとした学習を小さい頃から教えていく必要があると思いました。情報はたくさんありますが、正しい情報をきちんと選別していく必要があると思いました。

部落差別が未だに存在していることは認識していましたが、どちらかといえばわざわざ「差別だ」と掘り起こさなくてもよいのではないかと考えていた。しかし、今回の人権教育を通じて、これからの時代、部落差別を根絶してゆくためには、今私たちがきちんと現状を学び、国の一員として意識を変えていく必要があると感じました。

今回のお話のように、親から子へ正しい知識を受け継いでいくことも実現していきたいと思いました。自分ができることは多くはないですが、1つ1つの行動が差別に関係しているかもしれないという意識を常にもって、忘れないことも今できることでもあると思っています。

<教職員研修>

本校 SC の長岡敦子先生に「トラウマインフォームドケア」について、研修をして頂きました。「トラウマの『メガネ』で見てみよう」をテーマに、生徒の現在の行動や言動に過去の体験がどのように影響しているのか、私たち教職員が、その行動や言動をどのように捉え、支援していけば良いのか学びました。

<人権講演会：11人に1人に会ってみよう ～ジェンダー・セクシュアリティの世界～>

例年3年生対象の人権講演会に、今年度は1・2年生も参加しました。島根のちよこしLGBTQ相談室の藤彌葵実さんにお越し頂き、前半はLGBTQについてや藤彌さんのご経験の話、後半は生徒からの質問に答えて頂きました。以下は生徒の感想の一部です。

藤彌さんの経験を聞いて、知識がないというのは、それだけ無意識に人を傷つけてしまうんだと知りました。最後に質問に答えていただいて、もし友達がLGBTQだったらどう接したらいいか、LGBTQの人たちはどんな気持ちでいるのか、など知りたいことを知ることができてとても良かったです。どんな人でも生きやすい世の中にするには1人1人が知識を持って、LGBTQに対して何か特別なことと思わないくらいに当たり前のことになるのがいいと思ったので、私自身もっと知識をつけていきたいです。

最初の言葉で心がひきつけられました。「11人に1人」これは左利きの人の割合と同じだから、LGBTQであることはそんなに珍しいことではないという言葉聞いて、今まで無意識につけてしまっていた、トランスジェンダーの方と自分との間の壁が壊されていく感覚になりました。

今の社会では、みんなに合わせないといけない、誰かと同じじゃないと嫌われるんじゃないかという風潮があるけど、それは違って、自分は本当にそうしたいのか、何がしたいのかを考えて行動することが大事ということに気がつきました。

嫌なことから距離をとることは、自分を大切にすることに、つながっているんだなと思いました。

「周りの評価と自分の評価は別問題」という言葉が心に残りました。僕は、周りの評価や目などを気にしてしまっているから、もっと自分を理解し、自信をもって、自分の価値と自分の評価は別問題だと思いついていきたいです。

これから、どんな人に出会うかはわかりませんが、自分が人の多様性やその人にとっての当たり前を受け入れられる人になりたいです。

(講演会の様子)

